

～上方～江戸間の海運 菱垣廻船～

徳川幕府が開かれ、江戸が大都市として発展してゆくに
したがって、さまざまな物資が必要となりました。大坂から
江戸への物資輸送は急務となり海運業が発達しました。
その航路で活躍したのが菱垣廻船です。1624年（寛永元年）、
大坂北浜の泉屋平左衛門の江戸積の廻船問屋を開業、定期
運航が始まります。それを皮切りに次々と廻船問屋が開業
し、後の菱垣廻船問屋と発展します。菱垣廻船は大坂の
二十四組問屋と江戸の十組問屋の共同運航的に運営されま
した。菱垣廻船のシステムは、物流、商品の品質、価格な
どの安定に寄与するものとして幕府の保護もありました。



荷主の違う小口の生活必需品を一括して一隻の船で運ぶ方式は、
写真提供：セーリングヨット研究会
当時画期的なものでした。その積荷の主なもの九品（くじな）とよばれ、現代でも商品取引な
ど経済の指針となる品々です。18世紀に入り、菱垣廻船で運ばれていた兵庫産の酒や水油な
どを専門に運ぶ樽廻船が派生します。その後、明治維新により菱垣廻船の運営主体である株仲
間（問屋組合）が解散。菱垣廻船の歴史は終焉を迎えます。明治政府は近代化の一環として、蒸
気船など西洋型の船を推奨しますが、日本の近海航行に適し、ランニングコストもよい弁財型
の和船は明治中頃まで建造され続け日本の海の主役でした。

～プレイベント 4月8日（土）13時～16時

講演会「弁財船（千石船）を産み育てた塩飽の人たち」

講師：市民歴史研究家 藤本 増夫氏（大阪港市区在住）

「菱垣廻船復元の記録」55分上映

場所：天保山客船ターミナル2階

大阪市営地下鉄 地下鉄「大阪港駅」下車すぐ

主催：菱垣廻船の航跡～風待ち港実行委員会

後援：一般社団法人港まちづくり協議会大阪

菱垣廻船復元プロジェクト



サザンクロス号

（順不同）

協力：大阪帆船と国際交流の会（セイルオー20th）、公益社団法人 大阪港振興協会、
独立行政法人 海技教育機構、 咸臨丸子孫の会、 NPO 法人 大阪北港ヨットクラブ
セーリングヨット研究会、 株式会社近畿パッケージ、 サザンクロスの夢航海
一般社団法人 セーラビリティ大阪、 一般社団法人 大阪北港ディンギークラブ
上野電気工業株式会社、 NPO 法人ジョンマン・ホイットフィールドの会
ハートアイランド渡鹿野島、 エッセイスト 石濱 紅子氏

特別協力 神戸商船大学名誉教授（現神戸大学） 松木 哲氏

菱垣廻船の航跡～風待ち港実行委員会

URL <https://heiseihigaki.wixsite.com/higaki>

〒552-0012 大阪市港区築港 3-7-15 港振興ビル 206A

一般社団法人 港まちづくり協議会大阪内